

山岳トイレし尿処理技術 実証試験要領 第5版(案)について

第4版からの変更点

●P1 I. 緒言 2. 対象技術

<追記>

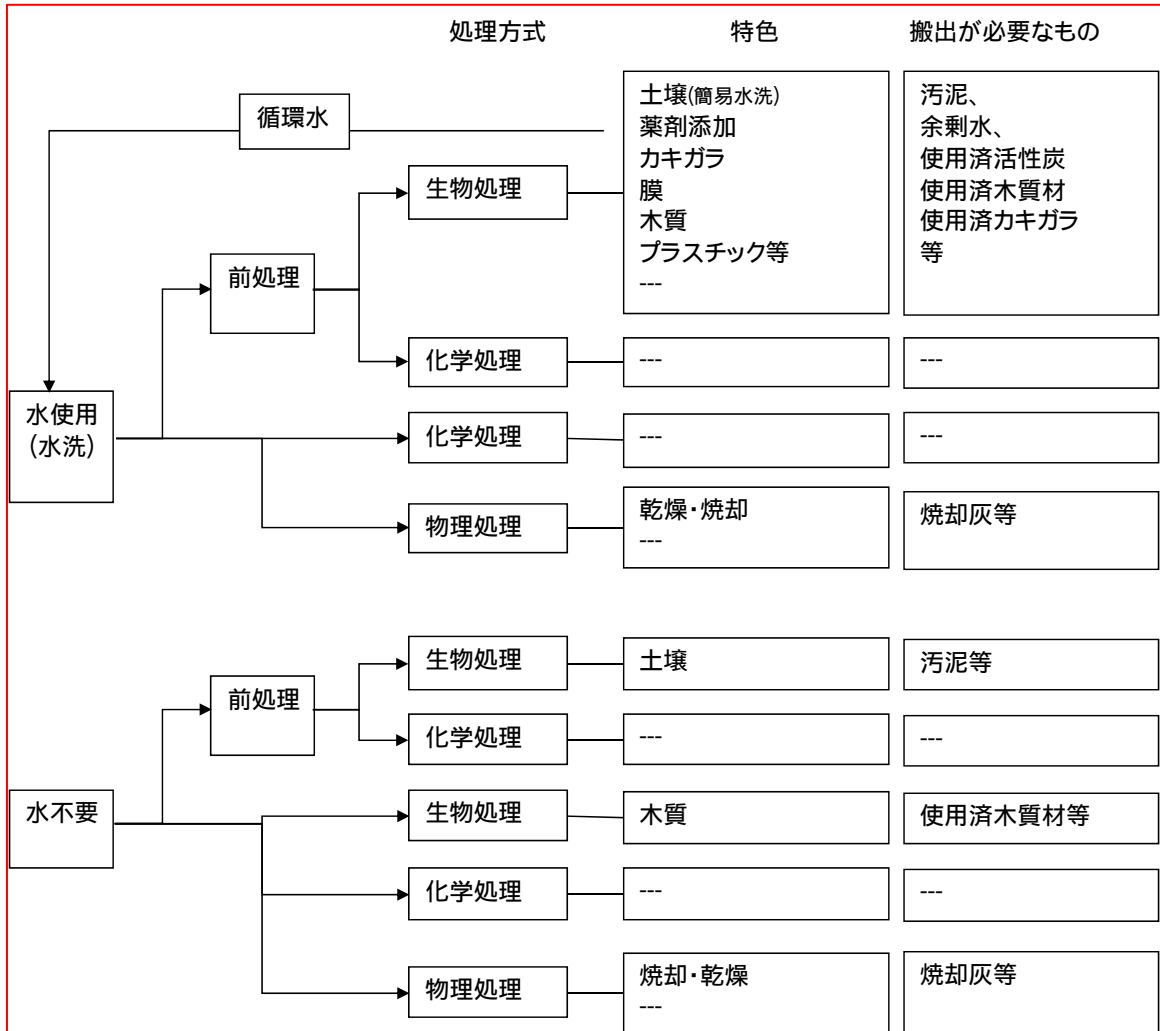
本実証試験の対象となる山岳トイレし尿処理技術とは、山岳地や山麓、海岸、離島などの自然地域で上下水道、電気(商用電源)、道路等のインフラの整備が不十分な地域、または自然環境の保全に配慮しなければならない地域において、し尿を適切に処理するための技術を指す。

<削除>

なお、平成19年度においては、山岳に加えて、山麓、海岸、離島地域についても試行的にコースを設けて実証できることとする。

●P14 IV. 実証試験の準備

<分類表を更新>



本図は、実証済み技術を基本として表記を行っています。また、「---」は、今後実証対象技術となった場合において、追加される可能性がある箇所です。

前処理とは、あらかじめ固形物を分離したり、微生物が分解しやすくするため液状化するなど、次の処理を行いやすくするための行程を指します。

表1 山岳トイレ技術分野に用いられるし尿処理技術の分類と概説

大分類 (水の有無)	小分類 (処理方式)	特色	前処理 の有無	技術説明
水使用 (水洗)	生物処理	土壌	有	土壌粒子による吸着・ろ過や土壌微生物を利用して処理する。(簡易水洗)
				生物膜および土壌微生物を利用して処理する(簡易水洗)
		薬剤添加	有	生物処理の補助剤として薬剤を添加する。
		カキガラ	有	接触材としてカキガラを使用し、生物膜により処理する。
		膜	有	活性汚泥によって処理した後、膜で固液分離する。
		木質	有	接触材である木質チップに汚水を散水し、生物膜で処理する。
		プラスチック	有	接触材としてプラスチックを使用し、生物膜により処理する。(参考事例として掲載)
	-	-	-	-
	化学処理	-	-	-
	物理処理	乾燥・焼却	無	乾燥・焼却して、粉末化する。(参考事例として掲載)
-		-	-	
水不要	生物処理	木質	無	木質系接触材の中に投入し、攪拌・送気を行い処理する。
		-	-	-
	化学処理	-	-	-
	物理処理	乾燥・焼却	無	乾燥・焼却して、粉末化する。(参考事例として掲載)
		-	-	-

本技術分類表は、環境技術実証モデル事業における技術の特色からの分類であり、学問的見地からの分類ではありません。

前処理とは、あらかじめ固形物を分離したり、微生物が分解しやすくするため液状化するなど、次の処理を行いやすくするための行程を指します。

● P19<削除>

「ただし、平成19年度は、海岸、離島地域においても試行的に設置して実証できることとする。」

● P24 処理性能

<差し替え>

表 8 : し尿処理方式毎の処理性能を実証するための分類項目

No	し尿処理方式	分類項目
1	水使用-生物処理-各種	単位装置の稼動状況、循環水、処理工程水、汚泥等（表9-1参照） （土壌については、周辺土壌の分析も実施する。 4 . 「（4）周辺環境への影響」参照）
2	水使用 / 水不要-物理処理-乾燥/焼却	単位装置の稼動状況、焼却灰・炭化物、排ガス等（表9-2参照）
3	水不要-生物処理-木質	単位装置の稼動状況、オガクズ・杉チップ 1、排ガス等（表9-3参照）
4	その他	実証試験計画で検討

1：し尿処理後に残存するオガクズ・杉チップ等を指す。

● P24、P25～P27、P29

<処理方式名の更新>

生物処理、物理化学処理、土壌処理⇒水使用-生物処理方式-各種

乾燥・焼却⇒水使用 / 水不要-物理処理方式-乾燥/焼却

コンポスト処理⇒水不要-生物処理方式-木質

●P42 資料1. 山岳トイレし尿処理技術実証申請書

<追記>

処理能力	平常時（ 人回/日）（ L/日） 利用集中時（ 人回/日）（ L/日） ※し尿原単位を（ L/回と想定して算定） 処理能力提示値（ ） 例)BOD●●mg/L以下
------	---